

明治150年 嚶鳴フォーラムin釜石

11月16・17日 [釜石市民ホールTETTO]

「小さく生んで、大きく育てる—近代製鉄の父・大島高任と明治の日本を築いた先人たち」をテーマに、お互いの郷土の先人の偉業を学び、より良きまちをつくることを目的に、市町長会議や公開フォーラムなどを開催。嚶鳴協議会に加盟している14市町や市民など約250人が参加しました。公開フォーラムの講演では、作家の童門冬二さんが高任の生涯を紹介しながら、研究者・教育者としての高任を評価した他、釜石生まれの作家・高橋克彦さんが郷土の歴史小説を書くようになった経緯などを説明し、いつか五葉山の話を書きたいと話しました。

※「嚶鳴」とは中国最古の詩集『詩経』に出てくる言葉で、鳥が仲間を求めて鳴き交うという意味。転じて、仲間が集まり切磋琢磨しながら、ともに学び成長しあう姿を表します。嚶鳴協議会には、恵那市、大野町、沖縄市、小田原市、釜石市、木曾町、多久市、竹田市、田原市、東海市、長野市、日田市、養父市、米沢市が加盟



対談で童門さんが描く新撰組のキャラクターに影響を受けたと話す高橋さん



タックルの代わりに腰から下げたタグを取るため、スピード感あふれるプレーを繰り広げる児童ら

釜石市小学校対抗ラグビー大会

11月18日 [釜石鶴住居復興スタジアム]

2回目となる同大会は、ラグビーワールドカップ2019への機運醸成を図る釜石東ロータリークラブが主催。市内7校（釜石小、双葉小、小佐野小、甲子小、鶴住居小、白山小、平田小）と奥州市からの参加チームを含め19チーム約150人が参加しました。4つのブロックで予選リーグを行い、各ブロックの上位2チームが決勝トーナメントに進出。決勝は鶴住居小ドラゴンズと甲子小ウォーターズが対戦し、熱戦の末、13-6で鶴住居小ドラゴンズが初優勝を飾りました。

宮沢賢治童話館

11月18日 [図書館]

郷土の作家・宮沢賢治の作品に触れ、理解を深める機会を提供するために、盛岡市を拠点に活動する劇団黒猫舎（菅原のみ子代表）が、賢治の童話や詩を朗読し、歌を披露しました。演目は「雪渡り」「かしばやし」の夜」「オツベルと象」の3作品。団員がそれぞれ登場人物を演じて朗読し、シンセサイザーでBGMが演奏されると、約40人の観客は賢治の独特の物語の世界に引き込まれました。また、この童話館に合わせて、図書館「イーハトーブ—賢治さんってどんなひと?—」も12月2日まで開催されました。



観客も一緒に歌に合わせて行進（「月夜のでんしんばしら」）したり、ハンドベル演奏（「星めぐりの歌」）をしました



第2部では釜石高校、釜石商工高校の吹奏楽部も参加し、アニメのテーマ曲など2曲を演奏しました

創立40周年釜石市民吹奏楽団第52回定期演奏会

11月18日 [釜石市民ホールTETTO]

釜石市吹奏楽団の創立40周年となった第52回定期演奏会は、初めての市民ホールでの公演となりました。同団は震災前、市民文化会館を中心に活動してきましたが、震災後は学校の体育館を借りて公演を続けてきました。待望の地元ホール公演では、74人のメンバーが3部構成で聴衆を魅了。市内から来場した女性は「すばらしい演奏だった。これからも生の演奏を聴ける機会が増えてほしい」と今後の音楽活動の盛り上がり期待しました。

小さな命を守るための あんしん防災講座～備蓄編～

11月27日 [青葉ビル]

就学前の子どもを持つ保護者を対象として、災害時に小さな子どもたちの命を守るための、食料の備えとその調理方法を伝える講座です。担当したのは、東日本大震災をきっかけに、助産師とお母さんをつなげる子育て支援事業などを行うNPO法人まんまるママいわて（佐藤美代子代表）。「小さな子どもは普段から食べ慣れたものしか食べないため、備蓄したものを日頃から食べさせること」「飽きないように量の少ないものをいくつか種類をそろえること」「季節に合わせて備蓄する食料も変えること」など、参加した7組の親子に具体的なアドバイスを送りました。



災害時を想定して水や火を使わずに作れる備蓄ご飯を作り、試食しました

うのすまい公民館まつり

11月2日、3日 [鶴住居公民館]

東日本大震災により中断していた鶴住居町民文化祭が8年ぶりに復活しました。鶴住居小学校3、4年生が合唱を披露した他、活動グループが日頃の活動の成果をステージで発表。住民の皆さんによる作品展示や体験コーナー、お菓子・海産物・野菜の販売など、さまざまなコーナーが設けられました。餅つきの手伝いに来た女性は「孫の空手の発表も見ることができて楽しい」と地域が一体となった公民館まつりを楽しみました。



ステージいっぱい活動の成果を発表するエアロビクスの皆さん

第48回釜石市民芸術文化祭

～こども芸術・文化の鑑賞～次世代を担う若い息吹に触れよう・育てよう～

11月2～4日（メイン会場開催期間） [釜石市民ホールTETTO]



市長が考え、釜石ゆかりの書家・支部蘭蹊さんが揮毫した「環」をバックに、「泉の社」によるオカリナの演奏（ステージでは13団体が躍動）



勤務先の釜石高校で被災した経験を歌った俳句などが取められた句集「龍宮」で第12回俳句四季大賞などを受賞した照井翠さん。その文化講演で、自身の俳句を読み解きながら、フィクションから真実に迫る俳句の面白さについて話しました



展示部門では、釜石小学校所蔵の山下清作品が特別展示されるなど、充実した作品で来場者を楽しませました（20団体の力作が勢ぞろい）

第14回水車まつり

11月4日 [橋野どんぐり広場周辺]

橋野町振興協議会、栗橋地区まちづくり会議の共催で、秋の实りに感謝する水車まつりが開催されました。餅まきや豚汁のお振る舞いの他、手打ちそばや豆腐田楽、雑穀おにぎりなどを販売。来場者は暖かい日差しが降り注ぐ秋空の下、地元食材に舌鼓を打ちました。水車小屋では、水車で動かす杵を使った米つきや、石臼で米粒を米粉にする工程を実演。唐箕を使った作業の他、イベント準備や運営に県立大学総合政策部の学生も手伝いました。



昔ながらの農機具「唐箕」で、米粒ともみを選別。臼で粉状になったもみは、風で吹き飛ばされます



京都と岩手、釜石のつながりが、桜の木の成長と共に太くなるように願いを込めました（左から県沿岸広域振興局副局長、市長、及川会長）

京都岩手県人会創立35周年記念事業「京都府の木」シダレザクラの記念植樹

11月8日 [大平墓地公園]

ヤエベニシダレザクラが鉄の歴史館隣接の公園に植樹されました。これは、京都の清水寺に取り付けられる、南部風鈴につるす短冊を、唐丹小と白山小の児童が寄せている縁などから植樹先に釜石が選ばれたもの。植樹には同県人会の会長・及川光夫さんをはじめ、京都から会員6人が駆けつけた他、西脇隆京都府知事からもお祝いのメッセージが寄せられました。

第32回釜石市民劇場「伝説 浜の孝子 両石村庄助と鐘」

11月10日、11日 [釜石市民ホールTETTO]

同ホールでの初公演となった釜石市民劇場。震災後、シープラザ遊を会場に公演を続けてきた市民劇は、今年、念願の「劇場公演」を復活させました。2回公演合わせて約600人が、江戸時代中期の両石村を舞台に描き出された「海で生きる人々の絆」や「親子の思いやり」に惜しみない拍手を送りました。



父の最期を看取る庄助（中央右）ら